

編集：佐岡文雄 / 印刷：本誌・東京都豊島区 光プリンター 付録：池田博明

2000年度 メモリアル採集観察会

1. 場 所 東京都町田市 都立小山田緑地 (地図 p. 2 参照)
2. 日 時 第2回 7月2日 (日) ~~雨天決行~~
(以後 第3回10月15日(日) 第4回2001年2月18日(日))
3. 集 合 小田急線「町田」駅バスセンター 12番乗り場 10時10分
10時22分発 神奈川中央交通「小山田」行きに乗り、
「大泉寺」バス停で下車。
10時22分発以降のダイヤ 11時42分(1時間に1本程度)
所要時間 約30分 運賃片道 280円
4. コース 大泉寺バス停より、小山田緑地へ。昼食は小山田の谷(トイレ・水場有)の予定。ただし売店はないため、弁当は用意しておいてください。
5. 世話人 今井正巳 (Tel 042-755-3086)

会費が値上げになりました

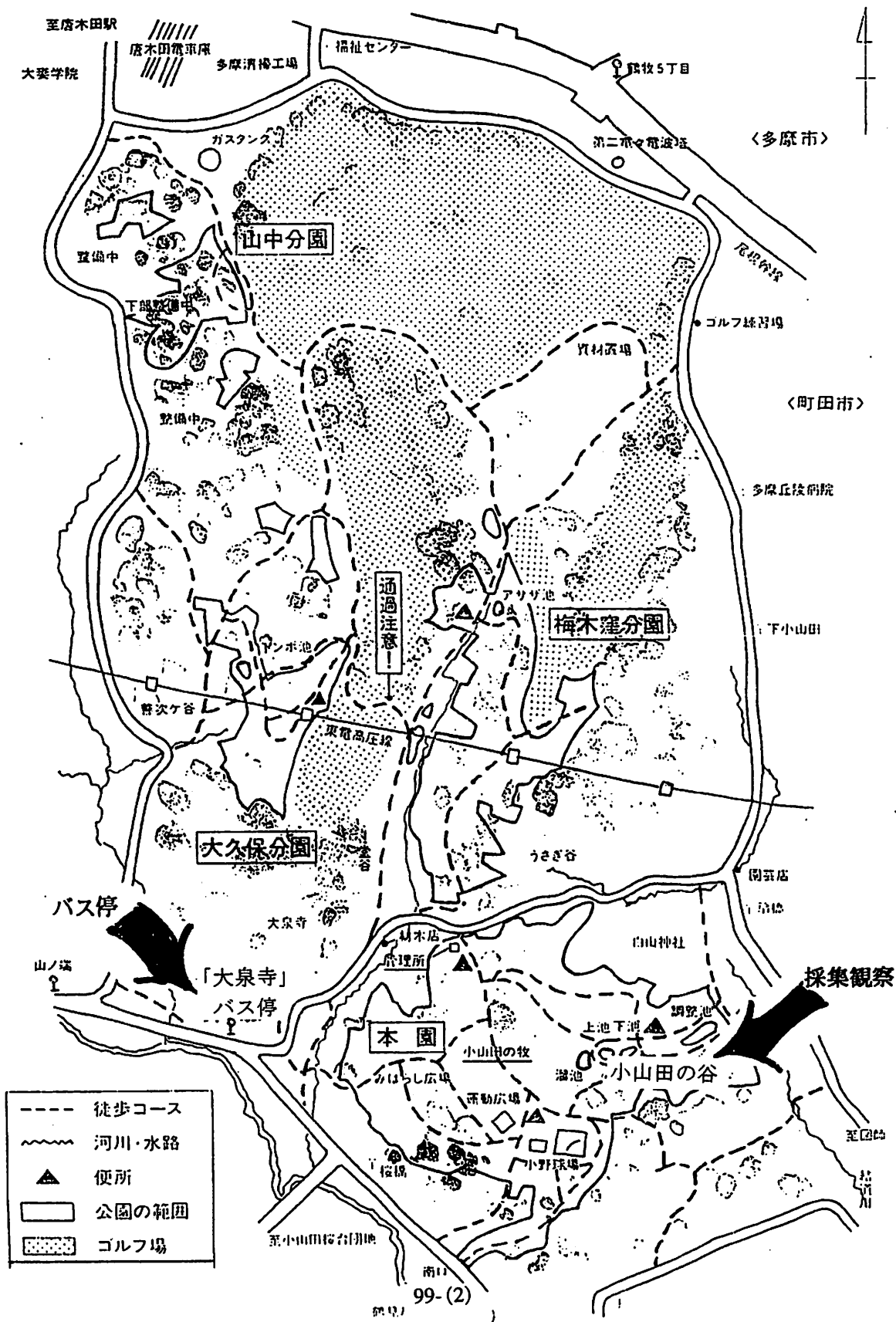
2000年度より、一般¥3,800 になりました。ただ1999年度以前の会費は¥2,800のままです。合わせて納金の方はお間違えのないようお願いします。「通信」封筒、宛名の下の納入状況をご確認下さい。
尚、学生会費は¥2,000のまま据え置きです。

会費についてのお問い合わせは、下記まで。
会計担当：安田明雄 〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1
中山駅前ハイツ1-506 (Tel 045-934-9210)

郵便振込口座番号 東京蜘蛛談話会 00170-8-74885

都立 小山田緑地

0 100 200 300 400 500 600



東京蜘蛛談話会1999年度決算報告

2000年4月23日

科 目	収 入	支 出	備 考
会費	1,087,600		欄外①
寄付	175,230		欄外*
別刷り	43,590		印刷代+送料立替分
利息	52,790		
会誌売上	24,000		
前年度繰越し	0		
特別会計から繰り入れ	0		
会誌作成		347,550	欄外②
会誌発送		69,610	欄外③
談話会通信		117,816	
報酬・送料		37,790	各局通信事務費
事務一般費		26,400	封筒等
その他		0	
前納会費繰越総額		568,400	
2000年度に繰り越し		215,644	
計	1,383,210	1,383,210	

欄外

①99年度前納繰越	353,600
99年度当年納入	165,600
00年度以降前納	568,400
計	1,087,600

②77号本誌	309,750	
77号別刷り	37,800	
78号本誌	0	2000年度会計で処理
78号別刷り	0	2000年度会計で処理
計	347,550	

③77号本誌	64,020	
77号別刷り	5,590	
78号本誌	0	2000年度会計で処理
78号別刷り	0	2000年度会計で処理
計	69,610	

	総額	うち年度内受領
2000年度前納	393,600	301,400
2001年度前納	90,800	51,600
2002年度前納	46,400	28,600
2003年度前納	14,200	5,800
2004年度前納	12,200	3,800
2005年度前納	8,400	0
2006年度前納	2,800	0
前納合計	568,400	391,200

2000年3月31日現在の財政状況

郵便貯金	普通	¥95
	定額	¥1,277,782
振替口座		¥12,370
手持ち		¥381,728
計		¥1,671,975
内訳	99年度繰越し	¥215,644
	前納会費	¥568,400
	特別会計	¥887,931

以上相違ありません。 2000年4月23日
 会計 安田明雄 会計監査 笠原喜久雄

*99年度、下記の方々（敬称略）からご寄付を頂きました。感謝申し上げます。
 萱島 泉、萱島先生の米寿を祝う会参加者一同、藤沢庸輔、野戸 章、
 井上尚武、古川 渉

東京蜘蛛談話会2000年度予算

2000年4月23日

科 目	収 入	支 出	備 考
会費	734,800		欄外①
前年度繰越	215,644		
特別会計から繰入れ	201,806		
会誌作成		796,000	欄外②
会誌発送		172,010	欄外③
談話会通信		120,740	欄外④
報酬・送料		38,500	欄外⑤
事務一般費		25,000	
計	1,152,250	1,152,250	

欄外

	単価	数	計
①会費	3,800	186	706,800
	2,000	14	28,000
計			734,800
②kishidaia78号	336,000	1	336,000
79号	230,000	1	230,000
80号	230,000	1	230,000
計			796,000
③kishidaia78号	310	203	62,930
79号	270	202	54,540
80号	270	202	54,540
計			172,010
④通信 99号印刷	13,000	1	13,000
100号印刷	20,000	1	20,000
101号印刷	13,000	1	13,000
通信 99号発送	90	202	18,180
100号発送	90	202	18,180
101号発送	90	202	18,180
例会はがき	50	404	20,200
計			120,740
⑤本部	2,000	1	2,000
事務局	5,000	1	5,000
編集	5,000	3	15,000
通信	6,500	1	6,500
会計	5,000	1	5,000
その他送料	5,000	1	5,000
計			38,500

1999年度会員動向

1999年4月1日時点の会員数 204名

入会9名, 退会12名(希望8名, 規約4名)

2000年4月1日現在の会員数 201名(名誉1名, 一般186名, 学生14名)

東京蜘蛛談話会総会・例会報告

2000.4.23 (日) 10:04 ~ 16:21 東京都国分寺市 国分寺市商工会館 3 階「大会議室」

司会：今井正巳 (スライド：谷川明男・新海栄一)

(1) 開会挨拶：萱嶋 泉 10:04 ~ 10:07

(2) 講演 10:10 ~ 16:35

①萱嶋 泉「ピッチャープラントとクモ」(掲示)

→マレーシアのウツボカズラの壺の中にいるクモについて。壺に落ちかけた虫や消化液から発生するミズアブやカを食べている。ウツボカズラの種と特定のクモがいるかどうかはまだわかっていない。

②森谷圭介・新海 明「ヤマシロオニグモの網の写真からわかったこと」(スライド)
(発表者：森谷圭介)

→'99.4.4 東京新聞紙上に掲載された網の写真(ヤマシロオニグモの恐らく幼体)からの観察した報告。実際のクモの網からは推定は難しいとのことで写真から。

③新海 明「スズミグモの分布拡大の様子」(スライド)

→北上傾向にある本種の分布状況について。

④徳本 洋「アシダカグモの分布情報の検討」(レジメ・スライド)

→石川県における初記録と、コアシダカグモとの誤認について。日本の分布記録は他も同じ誤認があるのではないか。

⑤池田博明「ハエトリグモの学名について」

→ Kishidaia78 号「日本産クモ目録(2000年版)」におけるハエトリグモの学名について解説。従来のものと違うものがある。

(昼休憩・写真撮影・総会 11:50 ~ 14:15 総会詳細については下記参照)

⑥石井幸子「ゲホウグモのフ化と冬の生活、その①」(スライド、写真回覧)

→自宅の庭におけるゲウホグモの観察

⑦浅間 茂「公園とジョロウグモ」(レジメ)

→千葉県柏市における市民参加の生物調査の結果について。

⑧吉田 真「タニマノドユウグモ放置網での盗み寄生」(レジメ)

→日中放置されていたタニマノドユウグモの網における侵入者と餌盗みの行動について

⑨高橋 登「お雇い外国人と日本のクモ」(レジメ、スライド)

→明治期の日本クモ学の黎明期を支えたお雇い外国人の軌跡について。
ヒルゲンドルフ、ローレツ、デーニッツ。

⑩谷川明男「沖縄のクモ 2000R1」(スライド)

→西表・沖縄のクモについての紹介。合わせて西表紀行もあり。スライドを使った沖縄のクモクイズ16問(超難問)も併せて行われる。賞品キーホルダー。最高点は池田博明さんの10問正解

⑪新海栄一「関東地方のクモ類」(レジメ、スライド)

→関東の採集記録からクモの分布の北限南限、北進傾向など読みとる。

(3) 自己紹介 16:35 ~ 16:45

(4) 閉会挨拶: 徳本 洋 16:46 ~ 16:50

(5) 懇親会 17:15 ~

参加者

浅間 茂、池田博明、石井幸子、石島 力、泉 宏子、井出和美、今井正巳、梅林 力、笠原喜久雄、加藤むつみ、萱嶋 泉、木村知之、工藤泰恵、黒沼春子、甲野 涼、小峰光弘、酒井理彦、笹岡文雄、貞元己良、佐藤幸子、新海 明、新海栄一、須賀瑛文、高橋 登、谷川明男、津曲直子、徳本 洋、新村 誠、古浜 隆、平松毅久、森谷圭介、安田明雄、八幡明彦、吉田 真 (34名・50音順・敬称略)

◎2000年度総会について

議事進行: 小峰光弘

1. 1999年度活動報告

①会誌 77~78号発行 ②通信誌 96~98号発行

③採集会 山梨県・扇山 Kishidaia79号掲載予定 担当: 新海 明

④合 宿 福井県敦賀市 Kishidaia78号掲載済 担当: 新海 明

2. 1999年度決算報告 (承認事項)

会計監査から決算案に間違いなしとの監査報告がなされ、p. 3の通り承認されました。尚、78号は1999年度予算による発行ですが、会計処理が年度をまたがったため処理が2000年度扱いになっています。

また郵便定額貯金満期解約による利息が契約当時、現在の金利よりかなり高かった為、多めに付いているとの報告がありました。

2. 2000年度予算 (承認事項)

①会 誌 79~80号発行 (ただし会計処理上、昨年度発行78号分繰越し計上)

②通信誌 99~101号発行(100号は記念誌として増ページ予定の為、予算増額)

その他 p. 4の通り特に問題なく、承認されました。

3. 2000年度活動案

①合宿について (承認事項)

場所: 静岡県榛原町(大井川鉄道沿線)

日時: 7月22日(土)~24日(月)

担当: 池田博明

申し込み期限: 6月30日(金)

実施する事を承認されました。（尚、詳細は同封別紙参照）

また合宿について遠方で行う場合、担当者に多方面に渡って負担が大きいこと。そこで最低限、金銭的にでも援助ができないかという意見が出ました。会からの手当としてか、参加費用に上乗せなどによる受益者負担によるかいくつかの考えが出ました。援助については特に必要ないとの反対もあり、討議の結果支給はおこなわないことになりました。

ただし特に遠方で行うときは、会として無理のないよう留意することになりました。

②採集観察会：東京都町田市 小山田緑地 担当：今井正巳（報告事項）
（通信にて既報済み）

4. 運営委員、会計監査改選について（承認事項）

昨年度をもって現運営委員、会計監査とも任期（2年）が切れた為、改選になりました。

新・運営委員（任期2001年度まで） 12名

今井正巳、池田博明、小野展嗣、木村知之、甲野 涼、笹岡文雄、新海 明、高橋 登、谷川明男、萩本房枝、初芝伸吾、安田明雄

新任者：今井正巳、甲野 涼、新海 明、初芝伸吾

退任者：久保田克哉、高橋祐子、平松毅久

新・会計監査（任期2001年度まで） 2名

梅林 力、笠原喜久雄

新任者：梅林 力 退任者：鈴木成生

5. その他

*名誉会員の件について

本会会員、吉倉 真氏希望退会にかかり名誉会員に推挙してはという意見が出、討議がなされました。

本会規約には名誉会員の規定が無く、無い状況で新たに推挙するかという問題が中心になりました。この状況下でも現在すでに名誉会員1名（千国安之輔氏）が、承認されていることとのバランスも考慮すべきである、これ以上名誉会員を増やすことは再現がないので反対等の意見が出ました。また名誉会員自体不必要ではないかという発言もありました。

現在名誉会員がいる以上規約に明記し、その後新たな名誉会員の推挙を行うべきとのことで、今総会にては決定しないことになりました。

今後規約について運営委員会にて12月の例会を目途に、その旨の改正案を作成する。例会で作成した案を示し、意見を聞くこと。その後来年度の総会にて承認を得られれば、規約改正を行う。その後吉倉 真氏の名誉会員推挙を討議するという方向になりました。

*吉倉 真氏について

熊本大学名誉教授 東亜蜘蛛学会（現日本蜘蛛学会）創立会員

「クモの生物学」（学会出版センター） 「クモの不思議」（岩波書店）など著

節足動物の発生について第一人者

*名譽会員について

規定はありませんが、現在のところ特別な権利はありません。会費免除のみです。またその他の権利（本会の活動に参加、会誌の配布を受けること、会誌への投稿）は一般会員と同じままです。

近況つれづれ

総会・例会出欠ハガキから

（一部編集・居所はハガキの記載による）

◇浅間 茂（千葉県千葉市）

あれやこれや手を出し過ぎて日々追われる中で立ち止まったら、再びクモをやりたくなりました。

◆井出和美（東京都日野市）

最近、蜘蛛に興味を持ち入会しました。まだまだ勉強不足ですがこれから、飼育・観察をしていこうと思っています。けれど、蜘蛛はおろか虫さえも飼育したことがない私に出来るのか？と不安です。先輩方にご指導していただこうと思っています。

◇梅林 力（東京都杉並区）

今、ちょっと休眠中です。ワスレナ関係のいろいろなこと、まとめようと思って、整理しています。早くまとめて文章化したと思っています。

◆太田定浩（三重県四日市市）

これまでも時折購入した「Kishidaia」で、また合同合宿の折いろいろと新知見をお教えていただいたり、刺激をいただいておりますが、この度、送れ馳せながら入会させていただきました。どうぞよろしく願います。東京蜘蛛談話会の足もとにも及びませんが三重クモ談話会の活動を活性化していきたいと思います。今後共よろしくご指導下さい。

◇緒方清人（愛知県知立市）

昨年の夏に我が家でシロカネイソウロウグモの雌雄を複数見つけました。イエオニグモの網が玄関と勝手口の蛍光灯の廻りにあり、それに居候しているのです。昼間、イエオニグモがひさしの影で休憩している

時には、網に掛かったアブラムシを堂々と食べていました。秋には卵のうを4個見つけました。12月になりさすがにイエオニグモは見られなくなりましたが、壊れた網の上部にイソウロウグモはしがついていますその数4頭。

私は出入りの度に見上げては「おっ、頑張ってるな」とつぶやくのです。そして4頭は正月を迎えました。今年の冬は暖冬で1月下旬には梅が咲く所もありました。しかし、節分が過ぎ、寒波襲来です。2月8日の夜から雪になり、今冬初積雪となりました。2頭は不明で雌は糸に絡まったまま死に、最後の雄は（臍帯幼体不明）生きています。

◆小澤實樹（東京都世田谷区）

今年はなんとかクモの網をテーマのデザインを制作したいと思っています。

◇小野展嗣（東京都新宿区）

現在ドイツ人の研究者と日本のアシダカグモ科の研究を進めています。普通種でもかまいません。標本をいただけると幸いです。とくに四国、九州のコアシダカグモ。

◆斎藤慎一郎（三重県津市）

1999年7月には敦賀へはるばるお越し下さり、中池見湿地等のクモを調査して下さいましてまことにありがとうございます。ぶ厚いKishidaia 78号に敦賀合宿の成果を新海明、金野晋両氏が発表下さり、敦賀（福井）もようやくクモ相の解明に動き出しました。厚くお礼申し上げます。

さて中池見湿地は昨年大阪ガスがLNG基地からの供用開始の10年延期を公表し、新局面を迎えましたが、大阪ガスは湿地を分断する舗装道路を（撤去するどころか）砂利を入れて強化するなど、デリケートな生態系をかえっていためつける挙に出て、中池見の自然を愛する者たちは毎日心労が絶えません。中池見湿地が正しく守られる見通しは、相変わらずたっていません。今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。私たちは来る8月に、ケベック市（カナダ）で行われる国際湿地泥炭地会議に参加して中池見問題を世界に知らせて参ります。

◇佐藤幸子（神奈川県横浜市）

今年になって2月18日に、ホテル・ニュー大谷で和服の展示会がありました。さそわれたので行って見ました所、大変おおがかりなものでビックリしました。その中にクモやコウモリを図案に用いたものがありました。染色家の津守順先生の作品で、2年位前から手掛ける様になったとのことでした。その折求めた着物を着て総会例会に出席するつもりです。

◆須賀瑛文（岐阜県可児市）

2月11日は中部蜘蛛懇談会の総会でした。関東・関西その他遠方からの出席者も多く盛り上がりました。

2月26日には三重クモ談話会の総会研究会に出る予定です。

今、愛知県のレッドデータ作成に緒方さんと参加しています。2002年ごろ県から発行の予定です。

◇徳本 洋（石川県金沢市）

目も頭も体力も低下して思うに任せませんがほそぼそとクモ調べを楽しんでいます。

今夏の本会の調査合宿は静岡県大井川沿線とのことですが、来夏は富山県でやりた

いので、その場所の世話を私にしてほしいとかねがね依頼されています。一応、場所は心当たりをつけたので、今年中に現地確認をしておく予定です。「来年のことをいうと鬼が笑う」といいますから、来夏までは見逃してもらいたいと鬼に頼んでおきます。

◆新村 誠（神奈川県川崎市）

久しぶりに総会に出席できそうです。日頃、クモの話題に乏しい生活をしておりますので、当日皆さんのお話で刺激を沢山受けたいし、一つでも頭に残る勉強が出来ればと思います。

◇野崎文江（埼玉県毛呂山町）

いつも採集観察会のおさそいありがとうございます。

2年前の8月木の枝をおろしていて手首を骨折してからむりできず観察会参加をひかえておりましたが、腕の方も回復し自由に使えるようになりました。ぜひ参加したいです。

昨年の11月下旬、ジョロウグモが卵のうを門柱に産みつけました。毎日観察をしています。子グモがかえるのを楽しみにしています。

◆峯澤 渉（神奈川県横浜市）

小さな蜘蛛にむけている視線が実は大きな世界に届いていることに気づき、ハッとさせられます。

◇和仁道大（千葉県千葉市）

89才の老人の在宅介護の補佐をすることになり、家を空けにくくなりました。

その他通知をいただいた方々

出席：石井幸子、萱嶋 泉、新海 明、高橋 登、谷川明男、津曲直子、吉田 真
欠席：小笠原幸恵、藤井靖浩、木庭 奏

数日前から天気予報で週末は関東地方は大雪になると伝えていた。あの「田無」の悪夢がよみがえった。どこもかしこも銀世界のなかでやったあの1996年2月18日の観察会のことである。覚悟して鳥沢の駅に降り立ったのだが、杞憂に終わった。雪はまったく積もっていなかった。そして、わずかに降っていた雪もしだいに止んできたのである。参加者は10名。午前の採集は貞元さんや大川さんらにまかせて、私は萩本、石島さんと一路、豚汁を用意すべく、いつもの田圃へと向かった。午後1時ころには準備も整い、三々五々参加者もそろった。豚汁の会は1990年の2月以来なのでなんと10年ぶりであった。地元の銘酒「笹一」も入り、一団を暖めて午後の採集へと入った。下草や石の下をのぞくがあまり成果は挙げられなかった。杉の樹皮をめくるとヤマトやヤハズといったフクログモがこぼれてきた。アシヨレグモも体を固くしていた。午後4時頃に集合してクモ合わせとなったが、なんとか43種類のクモが確認できた。まあまあというところだろう。

次回の5月は東京の町田市である。少しは、足も便利になると思うので多くの参加者をお待ちしたい。

参加者（敬称略）：石島力，今井正巳，大川秀治，貞元己良，新海 明，高橋 登，谷川明男，千田高史 萩本房枝，安田明雄 （以上10名）

目 録

ジグモ科 ジグモy住居

ユウレイグモ科 ユウレイグモy

エンマグモ科 ミヤグモFy，コマツエンマグモy

ウズグモ科 カタハリウズグモy

ヒメグモ科 オオヒメグモye，ツノナガイソウロウグモy，チリイソウロウグモy，

フタオイソウロウグモmy，ハイイロヒメグモy，シモフリミジングモm，カレハヒメグモm，ヒロハヒメグモy，

サラグモ科 ヘリジロサラグモy，アシヨレグモM，デーニッツサラグモM

コガネグモ科 ギンメッキゴミグモy，ジョロウグモe，ヤマシロオニグモy，タニマノ

ドヨウグモy，メガネドヨウグモy，サガオニグモm，トガリオニグモy，

ヒラタグモ科 ヒラタグモfy，

タナグモ科 クサグモye，メガネヤチグモy，

フクログモ科 ヤマトフクログモMy，ヤハズフクログモfmy，ウラシマグモy，イタチグモm

イツツグモ科 イツツグモFmy

シボグモ科 シボグモy

アシダカグモ科 コアシダカグモfy

カニグモ科 ワカバグモ f, コハナグモ y, アマガエビスグモ m, キハダカニグモ y
エビグモ科 キンイロエビグモ y
ハエトリグモ科 アオオビハエトリ y, アリグモ M y, マダラスジハエトリ f m y, チャ
イロアサヒハエトリ y, ヒメカラスハエトリ F,

計 16 科 43 種
(新海 明)



会員異動 2000年1月～3月 (敬称略)

入 会

原田弘道：〒306-0052 茨城県古河市大山1630
谷田光弘：〒229-0032 神奈川県相模原市矢部2-1-17
太田定浩：〒510-0893 三重県四日市市前田町23-2
津曲直子：〒039-2151 青森県上北郡下田町向山3320
井出和美：〒191-0065 東京都日野市旭ヶ丘6-3-15 豊荘203

退 会

(希望) 細田みどり、古川 渉、長井芳夫、諏訪哲夫、西条雄介、刈部幸代、吉倉 真
(規約) 朝倉幹晴

住所変更

熊田憲一：〒514-2294 三重県津市高野尾町5010 ヤマギシズム豊里実顕地

2000年度担当係

事務局が平松より変更になりました。

*新事務局：今井正巳 〒229-0038 神奈川県相模原市星が丘1-5-5
e-mail: m.imai@ma4.justnet.ne.jp

以下の担当は前年度と変更ありません。

*会 計：安田明雄 〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1
中山駅前ハイツ1-506

*会誌編集：木村知之 〒251-0012 神奈川県川崎市麻生区東百合ヶ丘4-38-12
原稿送付：池田博明 〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手1099
e-mail: fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

*通信編集：笹岡文雄 〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-12-21

クモのお味はいかが？！

'93の映画「水の旅人 侍 KIDS」に山崎努（サッポロビールのCFで横っ飛びしている俳優！）扮する掌ほどの大きさの水の精が出てきます。彼は普段、空蟬とかムシなんかを食べているのですが、ある時主人公の少年からチョコレートを貰って食べます。その感想が「クモの味がする」でした。これは聞き捨てならない話、ほんとうにそうなのでしょう。さっそくシロカネグモを生で食べたという某氏に聞いたところ、その味は甘くないホワイトチョコレートのような感じで、映画の表現とそう遠くないとのことでした。ということは脚本家か関係者の誰かが、実際にクモを食べた感想を台詞にしていたのでしょうか。作り事にしてはうまく合いすぎているような気がしますから、あながち間違いではないかもしれません。

現在、東南アジアや南米ではクモを食用として、日常食べているところがあります。タランチュラのような食べ手のある大型種がほとんどのようですが、文献によると味は小エビのようだそうです。

そんなこんな話を総合すると、クモの味はそれほど悪くないようです。採集会の後、試食会なんていうのも不可能ではないかもしれません。？！

ただし、クモを生で食べるのは用心しないといけません。今のところクモにはどんな寄生虫がいるかハッキリわかっていませんが、結構線虫やら何やら体内から出てくるのを観察された方も多いと思います。何かとんでもないモノの中間宿主だったりする可能性もあります。クモの新種の発見者ではなく新種の寄生虫の感染初報告者として、コレラみたいに名前を残すことになりませんよう。

談 話 会 通 信 に つ い て

1. 会の催しの告知など、会員の皆さんへの種々の連絡を主な目的としています。
2. クモと蛛形類（サソリ、カニムシ、ザトウムシ等）すべてに関して、「Kishidaia」誌ほど専門的ではない文章を掲載します。また関連する新聞雑誌等の記事の紹介も行います。
3. 単年度最低3回の発行を基本としています。
 - ①その年度の1号目の発行日は5月第3または第4日曜日
2号目の発行日は9月第3日曜日
3号目の発行日は2月第1日曜日
 - ②各号の投稿締切は、1号目は4月末日、2号目は8月末日、3号目は12月末日です。
4. 締切を過ぎた投稿は次号以降の掲載になります。
5. 投稿は内容によって「Kishidaia」誌に転載をお願いすることがあります。
6. 投稿原稿および新聞雑誌等の切り抜き記事は原則お返ししません。
7. 新聞雑誌等の切り抜き記事は原則「付録」に掲載します。また投稿締切と関係なく掲載は不定期になります。

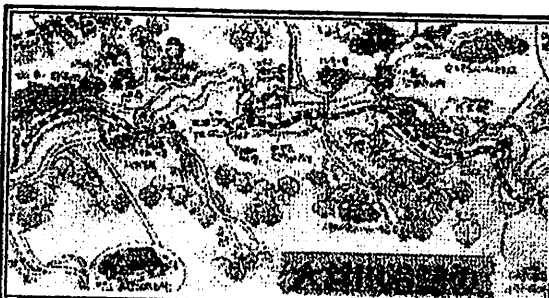
次号 100号 原稿締切は8月末日です。

東京蜘蛛談話会 静岡合宿 大井川鉄道沿線

最終更新日 2000年4月2日 (This Home Page is made by H. IKEDA.)

וְיִתֵּן לָנוּ יְיָ אֱלֹהֵינוּ וְיִתֵּן לְכָל עַמּוּת הָעוֹלָם

日程 2000年7月22日(土)から24日(月) 日程・申し込みなどは下記参照。
(3日間全日でなくとも、ご都合のつく日の参加でも結構です。世話人・池田博明まで連絡し
て下さい)



静岡県 大井川鉄道沿線

★7月22日(土)と23日(日)は、
中根川町営の宿「ウッドハウスおろくぼ」を確保しま
した。山間(標高550m)の新しいログハウスです。最大
32名まで宿泊できます。

★静岡県は北方系と南方系の境目に当り、もっとも蜘蛛の種数が多い県と予想されます。しかし、伊豆半島以外では合宿の例がありませんでした。今回初めて、静岡県中部での調査を実施します。

★今回の含宿では双眼実体顕微鏡を準備。
その日のうちに固定します。

★身近なクモの岡定のポイントをテーマに実施します。



大井川鉄道には1日に2回SLが走っています
(佐渡間駅にて撮影)

参加・宿泊の申し込みは、
2000年6月30日(金)までをお願いします。(宿舎の都合
がありますので、厳守して下さい)

▼申し込み先

池田博明

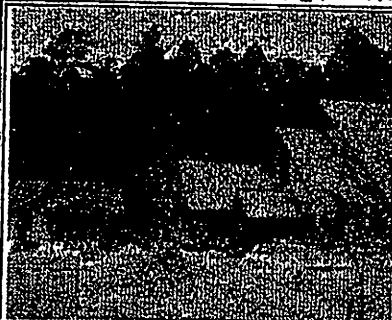
〒258-0018 足柄上郡大井町金手1099

TEL. or FAX. 0465-82-2105

次の池田宛のメールでも結構です。

→ 東京蜘蛛談話会合宿申し込み

(参加者名と性別・年齢・住所(連絡先)・電話番号・宿泊日・交通手段—電車が車か—を、お知らせ下さい)



NAKAKAYANE WOOD HOUSE
OROKUBO

郵便振替口座番号は00200—7—17837

名義人「ともだち館」

★宿舎住所:静岡県榛原郡中川根町水川886-5

大井川鉄道の下泉駅まで送迎バス、駐車スペースあり

★1泊2食 8000円(小学生は8000円、幼児は実費=寝具使用のみは1200円)

その他に行動費・施設使用料・傷害保険費・雑費・23日の昼食費として計2000円程度を見込んでいます。

一泊一万円とお考え下さい。

現地までの交通費は各自負担して下さい。下泉駅に來られる方は迎えの車を出します。

**行動日程表
(予定)**

なお、これらの行動は主なものでは強制参加ではありません。宿舎付近の散歩や休憩、またはテニスコートでの硬式テニスで楽しむこともできます。ただし、コート借用料は1時間1面400円と道具は自分で用意して下さい。

7月22日(土)
18:00チェックイン
18:00夕食
20:00夜間観察
(宿舎付近. 標高550m)
21:30～ クモ
合わせ
(宿舎の集会
室=緑の伝習
館にて)

7月23日(日)
朝食 8:00
午前の観察
9:00から(大井川沿いの雑木林を予定。標高200m)
昼食 12:30
午後の観察
13:30から(標高200~550mの間)
クモの固定(臨時・緑の伝習館にて)
夕食 18:00
夜間観察
20:00
クモ合わせ
21:30

7月24日(月)
朝食 8:00
チェックアウト
9:30
10:20 川根温
泉ふれあいの
泉で解散
(温泉に入って
ノンビリも、でき
ます。
笹間渡駅を
10:40ごろSL急
行が通過しま
す)

鉄道時刻表 (一部)	宿舍までの交通案内
東海道線および 大井川鉄道線)	★鉄道の方
*****	JR金谷駅から大井川鉄道・下泉駅下車
JR東海上り(14:58)	中川根上長尾・国道362号分岐点より7キ ロ
JR東海下り(14:46)	(分岐点に看板あります)
大井川鉄道金谷駅(15:05)	
大井川鉄道下泉駅(15:53)	
*****	★車の方
JR東海上り(15:48)	島田・金谷から
JR東海下り(15:46)	車で約1時間
大井川鉄道金谷駅(15:58)	
大井川鉄道下泉駅(16:51)	東名焼津・吉田・相良牧之原インターから
*****	車で約1時間20分
JR東海上り(16:18)	
JR東海下り(16:24)	
大井川鉄道金谷駅(16:40)	
大井川鉄道下泉駅(17:30)	

以後大井川鉄道は	
1時間に1本	
最終は金谷発21:00	
=====	
金谷から下泉まで料金は	
1300円くらい	
行動予定は	
若干の変更がある可能性があります。	
(中部蜘蛛懇談会および	
三重蜘蛛談話会の方とも	
相談したいと思います)	

ホームページでも御案内しています

<http://village.infoweb.ne.jp/~hispider/sizuokakumo.htm>

×切は6月30日です。人数が集まるかどうか心配
していません。ふるって御参加下さい。

メールでも申し込めます。

→ fwgd4084@mb.infoweb.ne.jp

小池牧子さん提供

'91.11.25
産経新聞



イエローベリル、ツァボライト、ピンク
トルマリン、ダイヤを使ったブローチ④
と、ロードライト、ブラックオニキス、
ダイヤを使ったスパイダーブローチ⑤

大グモにかまれ入院
熱帯や亜熱帯地域などに
すむ「タランチュラ」とい
う大型クモにかまれて入院
したという事例が十一日、
神戸市での日本中毒学会西

'00.3.11
朝日新聞

'97.10.17
朝日新聞

折々のうな

蜘蛛の糸にかゝれる木の葉かぞふ
れば軒の松の葉梅さくらの葉

大國 昌遠

『大國昌遠集』所収。「ものさびしき時よ
めらうた」題する。さびしいのは、退屈して
もいたからだろう。そんな時でも歌は詠める
という好例としても引けそな歌。昌遠は明
治に入ってから偶然佐佐木信綱によって発見
された幕末歌人だが、その屈託なげな歌風は、
『平明さゆえに時代を超えた魅力をもつ。』一貧
人にあらねばこそはやく見れ花といへば花
月といへば月。もったいぶらないのが惜案。

梅林 力さん提供 ↑ ↓

日本郵政で報告される。け
がをした人はベッドとして
飼っていた。
大阪府立中河内救命救急
センター（東大阪市）に昨
年一月、大阪市内に住む四
十歳代の男性が救急車で運
ばれた。治療に当たった同
センターの高岡誠医師によ
ると、患者は指の先がは
れ、激しく痛むので痛み止
めなどの処置のあと二日入
院した。

遺伝子組み換え「クモの糸」

クモの糸こそ世界最強の繊維……。米国の化学大手、デュポンはこんな発想から、遺伝子組み換え技術を駆使して、クモの糸そっくりの繊維を開発した。軽くて伸び縮みする特徴をいかし、衣料品や宇宙・航空機分野での実用化を研究している。生産工程でも石油製品や有機溶剤は一切使わず、天然に近い素材を強調している。

米デュポンが新素材

同社はまず、糸の特性を決めるクモの遺伝子の配列を解明。コンピュータを使って、これとそっくりな遺伝子を合成し、イースト菌などに組み込んで、クモの糸のたんぱく質に似た物質（パイオシルク）を生成した。この物質を溶剤で溶かし、糸を紡いで繊維にする仕組みだ。

新素材は社内で「スパイダーシルク」と呼ばれている。実物はまだ公開されていないが、デュポン関係者は「光沢が驚くほど美しい」という。

デュポンは一九三八年に「クモの糸よりも強く、鉄よりも強い」を標語にナイロン繊維を発売、合成繊維の時代が幕を開けた。だが、二十一世紀の飛躍の力基はライフサイエンス（生命科学）が握るといわれ、こうした時代の転換が、クモの糸の研究に立ち戻らせた。

いちよう



海老名市の主婦唐沢良子さん

子さんは、生涯案内人をもつて任じている。県自然観察指導員連絡会（愛称・グリーンタフ）会員で、東丹沢の県立七沢自然保護センターの自然観察園で開かれる「ミニ自然観察会」の案内役を務めている。

生涯案内人

からなる同会は、広さが者の質問に即応する。自然観察の領域は十一万五千平方メートル、二十年近い経験にゆづる。だが、散策路をユーモアあふれる解説を聞きながら足取り虫のようにならぬよう、二時間はアツという。日曜日にはぐらりと訪問。その節々で「結構面白、予約なしで参加でき」

唐沢さんが担当する観察会「白でじょう」と二人ひる観察会には、同センターの看板行事となつている。自身は「蜘蛛」のは、唐沢さんの気配りたる。七八年のオープン当初は、案内人はいなかったのだ。みんなの顔を見ながらグリーンタフのメンバーがボランティア駐在制を設けて対応したのが、観察会の始まりだった。

苦勞には頭が下が

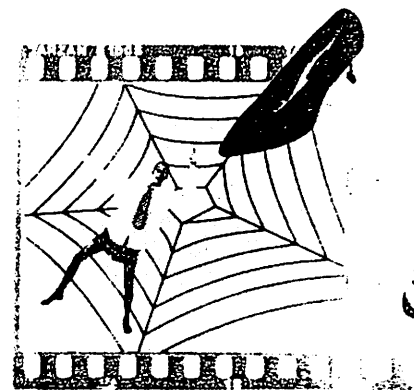
「自然観察の領域は、広く多様。ほんの少しづつでも開拓し続けていきたい」と話す唐沢さんの言葉に、生涯案内人の真骨頂を見た気がした。

（斎藤 典史）

談話会会員
唐沢良子さん
紹介記事

'97.10.26
読売新聞

95.2.21
毎日新聞 日曜版
漫画小説 三日月物語 曲



'99.625 No.260
Tarzan p.23



水戸黄門外伝 かげろう忍法帖

第2回「美しい裸体に鬼蜘蛛の呪い」

この頁まで道岡提供

No. 99
付録2

95.5.28

毎日新聞

TBS 番組広告

第2回の舞台は信州下田のこま下。
忍法帖を書く為、かげろう組が乗り込んだが、その先とんでもない事件が発生。かげろう組の強か、敵の忍び鬼蜘蛛の命の所にかかり、鬼蜘蛛の魔力でマインドコントロールされてしまった。そしてお説が、攻撃を仕掛けてくるではないか！
果たしてお説は、この呪いの術を解き、見事不正を暴くことができるか？